

感想文

八ヶ岳・夏山トレーニング（八経ヶ岳）に参加して

後藤 正道

夏山集中登山「八ツ岳」へのトレーニングNo.3は奈良県天川村・大峰の「八経ヶ岳」で関西の山では最も高い山だと。

ここは吉野の金剛山寺から熊野へ続く長大な大峰奥駈道の中に位置し、もっと早期に登りたいと思っていた高みのエリアである。

小生は、天川村から R309 を熊渡までは以前に行ったことがあるのだが、それから奥の行者還トンネルまでは行ったことがなく、今回は反対側の R169 の上北山村天ヶ瀬から行者還トンネルにアクセスするとのことで興味があった。この R309 の山岳道はがけ崩れ等が頻発する「ひどい酷道」の呼称がある国道である。

いよいよ R169 上北山村天ヶ瀬から R309 で行者還トンネルへ、トンネル東口登山口から大峰奥駈道に取りつくとの説明であったがバスはスーッとトンネル内へ、結局、トンネル西口登山口から沢に架かる木橋を渡り、登山開始することとなる。登りにくい急坂が奥駈道出合まで続く。

大峰奥駈道出合まで登ってきたら大粒の雨がふりだした。最悪だ。吾輩は「地震と雷」には怖さを感じる性格である。すると遠くから雷鳴が近づいて来る。やっぱりきたか。

しばらくは up.don の少ないぬかるんだ尾根道を進むと、だんだん石と木の根が絡まったすべりやすい道になってきた。道が小川のようになって疲れるよ。このやろうと思っていると、雨と雷鳴のなかを家族づれの子供も頑張っているのではないかと頼もしいなあ。雷に怖がっている我が爺が恥ずかしい。

いよいよ「弥山」への長が～い木の階段が現れた。強制歩行の階段は苦手じゃよ。「疲れたな～」「腹減ったな～」が頭の中を交差し走り回っている。だが、この階段を登らないと昼飯にありつけないのだ。12時30分弥山小屋到着。1895mの弥山小屋は風と霧で眺望は望めない。気温26度。濡れたシャツと合羽では寒くて震えながら、やっと昼飯にありついた。気がつくとも雨も雷鳴も止んでいました。

今日の目的地「八経ヶ岳」は下山時間との関係で省略とし、弥山神社に参拝後すぐに下山しますとの説明があり。予定時刻の午後4時に全員トレッキングセーフでした。

ここは人気があるメジャーな山で「かわいい～」山ガールにも出会え、子供と一緒に家族連れが多かったことなど、次の機会には日帰りではなく「ゆっくり」と小屋泊で来たいと思っています。お世話になりました CL、SL 及びご参加の皆様ありがとうございました。



西口登山口から登る



雨中合流点まで進む



弥山山頂にて